

萩原遺跡

(阿賀町大字谷花字萩原甲555ほか)

萩原遺跡は、阿賀野川左岸の段丘上に立地し、標高53mを測ります。一般国道49号揚川改良事業の建設に伴い、平成19年7月中旬から10月中旬にかけて970㎡の範囲を調査しました。調査により、縄文時代中期後葉および縄文時代後期前葉～中葉の遺構・遺物が出土しました。

土器の主体は、縄文時代後期前葉の南三十稻場式と呼ばれる在地的な特徴を示すもので、中期および後期中葉の土器は少量です。石器は、磨製石斧や磨製石斧を作る道具であるハンマーや砥石、木の実をすりつぶす際に使った磨石や石皿、刃物として使用した石匙や作りかけの石鏃が出土しました。

遺構のなかで注目されるのは石囲炉です。中央に石をならべた直径80cmほどの炉があり、その中には土器の底の部分が埋設されていました。炉の中の土は赤く、よく焼けていました。炉を中心に1～1.6mの範囲から柱穴と思われるピットが4基見つかっています。今回の調査で見つかった住居は1軒のみですが、調査区の北東部に位置していることから、集落の中心部は調査区よりも北部(工事範囲外)に位置していると考えられます。

整理作業では、多く出土している在地の南三十稻場式に、他地域の土器がどれくらい、どのような様子で混入しているのかについて検討し、当時の人々の交流の様子を解明したいと考えています。(小川真一)



土器埋設石囲炉

北新田遺跡

(上越市大字荒町字北新田313番地1ほか)

北新田遺跡は青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高17.5～18mを測ります。遺跡の周囲には旧青田川と考えられる比高差3.0m程の一段低い落ち込みが見られます。北陸新幹線の建設に伴い、7～11月にかけて6,350㎡を対象とした発掘調査を行いました。調査により、古墳時代～中世の遺跡であることがわかりました。

現在の耕作土の直下(約20cm)から、竪穴住居20棟、掘立柱建物31棟、井戸15基を検出したほか、平安時代の土器が出土した土坑、畑作溝などが見つかっています。遺構の年代については出土遺物などから、竪穴住居は古墳時代、掘立柱建物は古代、井戸は古代及び中世のものが大部分と考えられます。

調査区西側にはほぼ南北方向を走る流路を検出しました。幅約30mを測り、深さは約2mで、埋土の黒色土から古墳時代及び古代の土器が多数出土しています。この流路も旧青田川の一部と推定されます。

(株)ノガミ 金内 元)



古墳時代の竪穴住居



流路の掘削作業